

平成27年9月 日作成

| 都道府県名 | 計画主体名 | 地区名 | 計画期間 | 実施期間 |
|----------------------------|-----------|--------|-----------|-----------|
| 秋田県 | 秋田県 | 秋田 3 期 | 平成21～25年度 | 平成21～25年度 |
| 事業メニュー名 | 事業内容及び事業量 | | 事業実施主体 | |
| 農林水産物処理加工施設 【米粉の郷あきた地区】 | 米粉製粉設備 一式 | | 瑞穂食品株式会社 | |

1 目標達成に向けた取組

| | |
|------------------------|---|
| 本年度実施方策 (平成 2 6 年度) | <ul style="list-style-type: none"> ・ 展示会、商談会への出展による末端需要の掘り起こし ・ 量販店での惣菜向け商品開発と営業展開 ・ 米粉料理教室や関連イベントの開催による県内での普及推進 |
| 本年度実績 (平成 2 6 年度) | <ul style="list-style-type: none"> ・ 従来から継続的に各種展示会等で商品 P R や量販店、製パン業者等への営業活動を行っているものの、価格等の面から業務用米粉の売れ行きが伸び悩み、瑞穂食品(株)においては、依然として在庫が発生している状況にある。 <p>(瑞穂食品の主な活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 展示会等へは、ファベックスを始め 4 つのイベントに出店し、米粉商品を P R。(関東商事、ヒラタ等の展示会) ・ ニップンの顧客向け展示会、セミナーでの P R を実施。 ・ 量販店の惣菜向け(バックヤード向け)として、米粉入り天ぷら粉、唐揚げ粉に力点を置いて営業活動を展開。 ・ 洋菓子店に対しては、ニップンの洋菓子向け米粉商品を用いた新たなお菓子レシピを有名シェフに監修を委託し、商品とレシピをセットで営業を展開。 ・ ベーカリー向け情報誌(ベーカリーパートナー)を通じ、商品の P R とモニターキャンペーンを展開。 <p>(秋田県)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 米粉料理教室については、12月に親子米粉料理教室を開催したほか、10月の食の国あきた県民フェスティバルにおいて米粉料理の試食会を開催し、米粉の魅力を県民に広く周知。 |
| 所 見 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 「食料・農業・農村基本計画(H27. 3. 31)」における米粉用米の生産努力 目標の見直しや、新たな「米粉の新用途への利用の促進に関する基本方針(H27. 4. 16)」を踏まえ、平成26年度に策定した改善計画を再検証する。 |

(参考様式4-1)

秋田3期地区活性化計画 改善計画書

平成27年9月 日作成

| | | | | |
|----------------------------|-----------|------|-----------|-----------|
| 都道府県名 | 計画主体名 | 地区名 | 計画期間 | 実施期間 |
| 秋田県 | 秋田県 | 秋田3期 | 平成21～25年度 | 平成21～25年度 |
| 事業メニュー名 | 事業内容及び事業量 | | 事業実施主体 | |
| 農林水産物処理加工施設 【米粉の郷あきた地区】 | 米粉製粉設備 一式 | | 瑞穂食品株式会社 | |

1 事業活用活性化計画目標の達成状況

| 事業活用活性化計画目標 | 目標値A | 実績値B | 達成率(%) B/A | 備考 |
|-------------------|-------------|-------------|---------------|------------------|
| 地域産物(米粉用米)の販売量の増加 | % 955.76 | % 612.26 | 64.06 | 計画期間(H21～25)の実績値 |

2 目標が達成されなかった要因

- ・ 事業実施当初は、国の積極的な働きかけの基に、大手食品メーカーで米粉を使った新商品を開発し販売していたため、それに対応した米粉商品(業務用米粉)の販売が堅調に推移した。(米粉用米の生産・販売数量も増加)。
- ・ しかし、各メーカーとも小麦代替としての利用に止まったため、小麦粉との価格差に見合う価値を消費者に訴求できず末端需要が低下。結果、業務用米粉の売れ行きも減速し、瑞穂食品(株)において米粉の在庫が発生し、米粉用米の契約量が低迷した。
※ 新規需要米制度では、実需との契約を根拠として米粉用米として認められるが、瑞穂食品(株)からの契約数量が減少したため、生産意欲はあっても作付けできないという状況。

3 目標達成に向けた方策

| | |
|---------|---|
| 目標達成年度 | 平成32年度 |
| 事業の推進体制 | 日本製粉(瑞穂食品の親会社)、瑞穂食品、全農秋田県本部、県 |
| 具体的取組方策 | <ul style="list-style-type: none">・ 「食料・農業・農村基本計画(H27.3.31)」における米粉用米の生産努力目標の見直しや、新たな「米粉の新用途への利用の促進に関する基本方針(H27.4.16)」を踏まえ、平成26年度に策定した改善計画を再検証するとともに、現在の在庫状況、今後の販売見通しを総合的に勘案し、目標値を下方修正する。 (瑞穂食品) <ul style="list-style-type: none">・ 展示会、商談会への出展による新規実需の掘り起こし・ 量販店での惣菜(天ぷら、唐揚げ等)向け商品やベーカリー向け米粉入り菓子等のレシピ開発と営業活動の強化 (全農(県本部)) <ul style="list-style-type: none">・ 安定多収技術の確立に向けた現地指導 (県) <ul style="list-style-type: none">・ 米粉料理教室や関連イベントの開催による県内での普及推進 |

4 改善計画に対する第三者の意見

(コメント)